秋田県文化財調査報告書第201集

遺跡詳細分布調查報告書

1990.3

秋田県教育委員会

秋門、北京江村

遺跡詳細分布調查報告書

1990 • 3

秋田県教育委員会

本県は遺跡の宝庫といわれるほど、縄文時代を中心とする数多くの埋蔵文化財があり、これら先人の残した文化遺産を保護することは県民に課せられた責務であります。これとともに、豊かで快適な県民生活を築くための地域開発や道路など交通体系の整備は県民の切実な要望であります。

このような埋蔵文化財保護と地域開発という事業の調和のとれた 行政施策が今日的課題であり、その基礎となるのが遺跡分布調査、 遺跡範囲確認調査であります。

本報告書は平成元年度国庫補助事業として実施した、東北横断自動車道東和・秋田線建設事業、大野台地区都市公園整備事業などの遺跡分布調査と秋田外環状道路建設事業、秋田ふるさと村建設事業釈迦内地区農免農道整備事業などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。

最後になりましたが、これらの調査にご協力いただきました関係 各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につ きましてご協力下さいますようお願い申し上げます。

平成2年3月1日

秋田県教育委員会

教育長 橋本頭信

例 言

- 1 本書は、平成元年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した遺跡分布調査と遺跡範 囲確認調査の報告書である。
- 2 本書に掲載の遺跡分布調査・範囲確認調査は、秋田県教育庁文化課・秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は各担当が作成したものをそのまま掲載したもので、編集は 秋田県埋蔵文化財センターが行った。
- 3 遺跡分布調査のうち、東北横断自動車道東和・秋田間の分布調査は、次年度試掘調査を実施して、その成果とあわせて、平成2年度に報告する。
- 4 遺跡範囲確認調査のうち、県営大野関地区圃場整備事業に係る入江遺跡・六本杉遺跡、秋田外環状道路建設事業に係る箱館、東北横断自動車道東和・秋田線建設事業の係る小松原遺跡、釈迦内地区農免農道整備事業に係る上袋遺跡は、調査の結果、調査区内から遺構その他を確認できなかったので、本報告から除外した。
- 5 報告書に使用した地図は、建設省国土地理院発行の5万分1地形図、2.5万分1地形図と建設省・日本道路公団・秋田県農政部・秋田県土木部が作成した1000分1の地図および500分1の地図である。

目 次

	序		
	例言		
第	1章	は	: じめに
築	2章	平	成元年度遺跡分布調査・範囲確認調査実施要項1
	第1節	i	遺跡分布調査
	第2節	i	遺跡範囲確認調査2
第	3章	調	査の記録
	第1節		遺跡分布調査
		1	東北横断自動車道東和・秋田線建設事業5
		2	秋田外環状道路建設事業6
		3	大野台地区都市公園整備事業7
		4	曲田地区農免農道整備事業8
	第2節		遺跡範囲確認調査9
		1	秋田外環状道路整備事業9
			松館跡9
			大沢遺跡11
		2	琴浜能代道路建設事業13
			萱刈沢 I 遺跡13
			萱刈沢II遺跡······17
		3	森吉山ダム関係23
			狐岱遺跡23
			山崎遺跡35
			吉野 I 遺跡38
			吉野 II 遺跡
		4	秋田ふるさと村建設事業45
			富ヶ沢A・B・C窯跡45
			富ヶ沢1・2・3・4号塚45
		5	三重地区公害特别対策事業57
			宝竜堂遺跡57

第1章 は じ め に

国庫補助事業を得て実施した平成元年度の遺跡分布調査は、秋田外環状道路建設事業、東北 横断自動車道東和・秋田線建設事業、大野台地区都市公園整備事業、曲田地区農免農道整備事 業、主要地方道秋田・昭和線建設事業に係る遺跡分布調査と、秋田外環状道路建設事業、琴丘 能代道路建設事業、森吉山ダム関係、秋田ふるさと村建設事業等に係る21遺跡の遺跡範囲確認調 査である。これらの調査は既に策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁文化課、秋田 県埋蔵文化財センターの職員、それに秋田市教育委員会、横手市教育委員会の専門職員の協力 を得て、平成元年4月から11月にかけて実施したものである。

第 2 章 平成元年度遺跡分布調查·範囲確認調查実施要項

第1節 遺跡分布調査

調査の目的

開発予定地内を踏査して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる.

2 調査の方法

- (1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する。
- (2)調査の期間はおおむね1~5日間とし、地元の人々の遺跡についての情報を活用する。
- (3) 確認された遺跡を地図へ記入するなどの記録は、必ず現場で行う。
- (4) 遺跡の現況、遠景を必ず写真撮影する。同時に遺跡に至るまでの経路、目標を詳しく記 録し、はじめての人でも迷わず現場に到着できるようにする。
- (5) 使用する地図は2.5万分の1地形図と開発部局で作成した図面とする。

事業主体者

秋田県教育委員会

調查担当者

秋田県教育庁文化課

学芸主事 熊谷太郎

秋田県埋蔵文化財センター 学芸主事 武藤祐浩

秋田市教育委員会

主事 安田忠市

5 調査対象地域及び事業名

No.	事 業 名	調査期間	調 査 結 果 等
1	東北横断自動車道東和・秋田	平成元年 6 月22日、23日	新たに路線に係る周知の

第2章 平成元年度遺跡分布・範囲確認調査

	線建設事業(湯田町・横手市間)		遺跡を1箇所確認
2	秋田外環状道路建設事業 (秋田市上新城道川·金足岩瀬間)	平成元年 4 月24日~5月9日 平成元年11月25、26日	新たに路線に係る周知の 遺跡2箇所と新発見の遺 跡1箇所を確認
3	大野台地区都市公園整備事業 (合川町)	平成元年10月21日、22日	事業区域内に新発見の遺 跡2 箇所を確認
4	曲田地区農免農道整備事業 (大館市)	平成元年11月10日~13日	路線に係る周知の遺跡を 1 箇所確認
5	主要地方道秋田·昭和線建設 事業(秋田市·昭和町間)	平成元年11月17日~18日	路線区域内に遺跡は確認 されなかった。
6	東北横断自動車道東和·秋田 線建設事業(秋田市上北手· 上新城間)	平成元年 7 月12日、13日	平成2年度報告予定

第2節 遺跡範囲確認調査

1 調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して埋蔵文化財の保護と保存を図る。

2 調査の方法

- (1) 遺跡の広がり、埋没の度合、時代とその性格を知るために、当該地域で遺物の表面採集及び小規模の発掘調査(遺構群確認面までの掘り下げ)を行う。
- (2) 調査の期間をおおむね $2 \sim 12$ 日間とし、その期間内にできるかぎり発掘調査を面的に広げて遺構の確認に努める。
- (3) 確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録は現場で行う。その際遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは必ず写真撮影をする。
- (4) 使用する地形図は開発部局で作成した一番大きな縮尺図面とし、新規に測量などは行わない。
- (5) 遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県教育委員会 学芸主事 熊谷太郎

秋田県埋蔵文化財センター 学芸主事 船木義勝、 同 大野憲司、 同 利部 修、

同 谷地 薫、 同 武藤祐浩、文化財主任 柴田陽一郎、

文化財主事 栗沢光男、非常勤嘱託 藤原 司、同 三浦光男

秋田市教育委員会

主事 安田忠市

横手市教育委員会 主任 沢谷 敬

5 事業名・調査対象遺跡・調査期間ほか

No.	事 業 名	遺跡名(遺跡No.) 及び所在地	調査期間	摘 要
1	県営大野関地区 圃場整備事業	入江遺跡 (西木村) 六本杉遺跡(西木村)	平成元年 4 月17日~25日	調査区内は遺跡 と認定できず
2	秋田外環状道路 建設事業	箱館 (秋田市) 大沢遺跡 (秋田市) 松館 (秋田市)	平成元年 4 月24日~28日	調査区内は遺跡と認定できず
3	琴丘能代道路建 設事業	萱刈沢 I 遺跡 (八竜町) 萱刈沢 II 遺跡 (八竜町)	平成元年5月8日~12日	
4	森吉山ダム関係	狐袋遺跡(森吉町) 山崎遺跡(森吉町) 吉野 I 遺跡(森吉町) 吉野 II 遺跡(森吉町)	平成元年 6 月13日 ~ 6 月30日	
5	東北横断自動車 道東和·秋田線 建設事業	小松原遺跡 (横手市)	平成元年8月8日	調査区内は遺跡 と認定できず
6	秋田ふるさと村 建設事業	富ヶ沢 A~C窯跡(横手市) 富ヶ沢 1~4号塚(横手市)	平成元年 9 月 4 日 ~10月 4 日	
7	三重地区公害特 別対策事業	宝竜堂遺跡(十文字町)	平成元年11月6日~9日	
8	釈迦内地区農免 農道整備事業	上岱遺跡(大館市)	平成元年11月6日 ~11月10日	調査地内は遺跡と認定できず



第1図 遺跡分布・範囲確認調査位置図

第3章 調査の記録

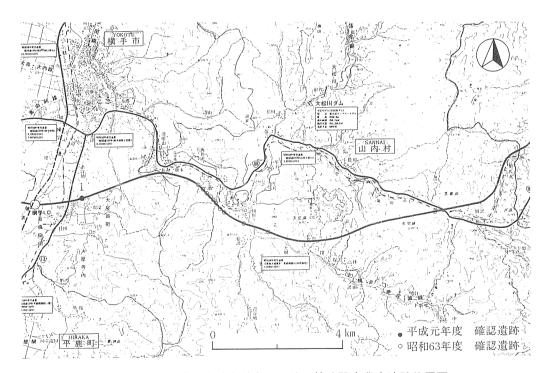
第1節 遺跡分布調査

1 東北横断自動車道東和・秋田線建設事業 (湯田町・横手市間)

昭和63年度に実施した分布調査により、山内村~横手市間の路線上に11箇所の遺跡が係ることを確認したが、その他、遺跡が否か明確でない地点もあり、本年度はこの区域を中心に試掘等を実施して最終的な遺跡の確認を行ったものである。

その結果、新たに周知の遺跡1箇所が路線に係る事を確認した。

No.	遺跡名	所 在	地	時	代	等	現	況
1	新町遺跡	横手市大屋新町字		縄文時	1 4		果樹園	・畑地



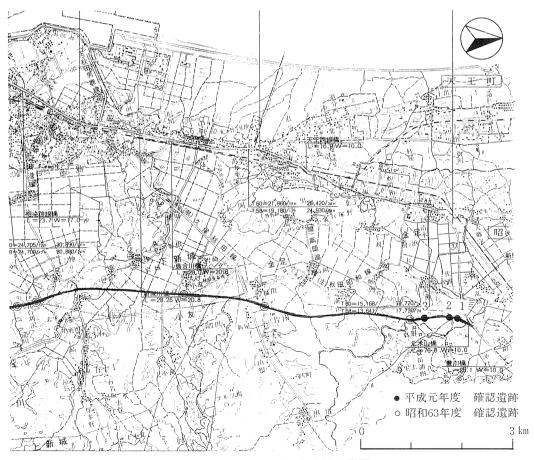
第2図 東北横断自動車道東和・秋田線建設事業内遺跡位置図

2 秋田外環状道路建設事業(秋田市上新城道川・金足岩瀬間)

秋田市上新城道川から金足岩瀬に至る全長 9.7km の自動車専用道路で、南側は東北横断自動車道東和・秋田線に接続する計画の路線である。昭和63年に既に路線の一部について分布調査が行なわれており、その際、遺跡の占地の可能性が強い 6 箇所が確認されているため、本年度はこれらの箇所を中心に試掘を実施し、最終的な遺跡の確認を行ったものである。

その結果、新たに新発見の遺跡1箇所と、周知の遺跡2箇所が路線に係る事を確認した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代 等	現 況
1	大平遺跡	秋田市金足岩瀬字松館大平28-5外	縄文時代前・中期	山林
2	松館跡	秋田市金足岩瀬字松館29-10外	中世城館	畑地
3	大沢遺跡	秋田市金足岩瀬字大沢92-58外	縄文時代前・中期	山林・畑地



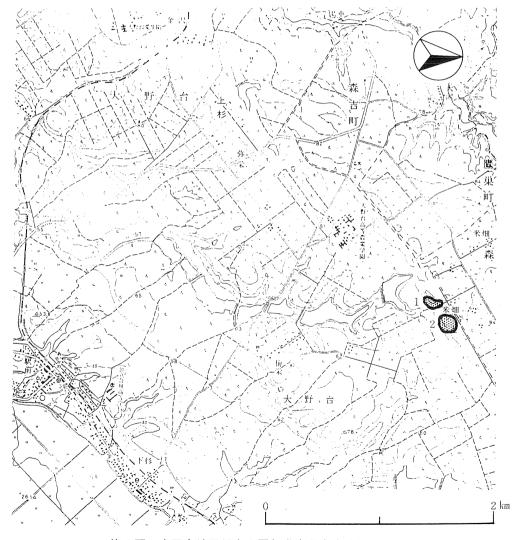
第3図 秋田外環状道路内遺跡位置図

3 大野台地区都市公園整備事業(合川町)

リゾート基本構想の下に大規模な公園整備を計る事業で対象面積は約 212haである。このうち造成が予定される区域について分布調査をおこなった。

その結果、新発見の遺跡2箇所が造成区域に係ることを確認した。

No.	遺跡名	所 在	地	時 代	等	現	況
1	赤坂I遺跡	北秋田郡合川町上杉	字赤坂206外	縄文時代前	・後期	牧草地	·
2	赤坂Ⅱ遺跡	北秋田郡合川町上杉	字赤坂217外	縄文時代前	期	畑地	

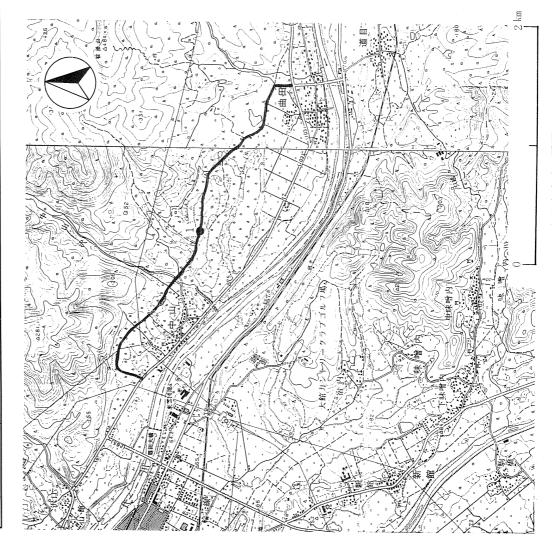


第4図 大野台地区都市公園整備事業内遺跡位置図

4 曲田地区農免農道整備事業(大館市)

遺跡の占地の可能性が強 遺跡か否かの確認を この区間の分布調査を実施した。 5 この他、 れらについては改めて試掘等を行 を確認した。 大館市曲田から中山に至る延長約 3.3km の計画路線で J 1) 周知の遺跡1箇所が路線に係る 1) い地点が4箇所認められたが する必要がある 査の結果、

No.	遺跡名	所 在 地	時代等	現況
	野沢岱遺跡	大館市曲田字野沢岱82外	縄文時代	果樹園・山林



第5図 曲田地区農免農道整備事業内遺跡位置図

第2節 遺跡範囲確認調査

1 秋田外環状道路建設事業

松館跡

1 所在地 秋田市金足岩瀬字松館大平29-10外

2 工事区域内遺跡面積 5,200 m²

3 調査期間 平成元年 4 月24日~4 月28日

4 調査担当者 武藤祐浩、安田忠市

5 遺跡の立地と現況

遺跡は秋田市の北端、昭和町草生土より北西にのびる幅300~800mの丘陵の南縁に舌状に張り出した台地である。この台地の平坦部分は幅40m(東西)長さ80m(南北)の広さで、南端の標高は21mを測り周囲の水田との比高差16mである。現況は畑地であるが、部分的に荒地もある。また、台地上には送電線用の鉄塔が設置されている。

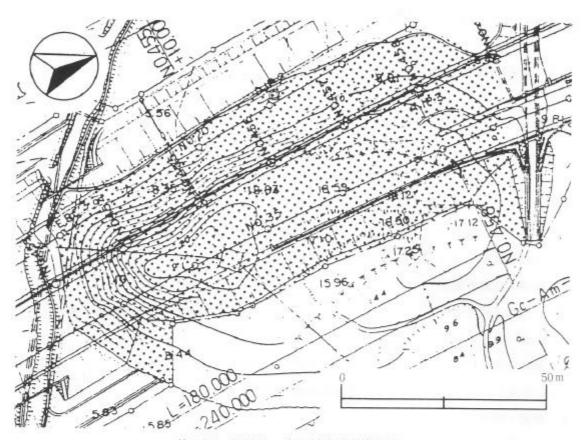
6 範囲・時代・性格

本遺跡は『秋田県の中世城館』にも記載された周知の遺跡である。

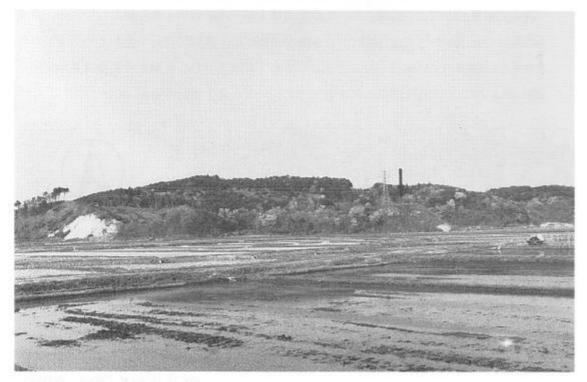
調査の結果、台地上の南側において焼土遺構1基・溝状遺構1条を検出したほか、台地上の南~中央部にかけて柱穴状ピット5基を検出した。遺物はフレークが1点出土したのみである。城館の性格と地形から斜面まで含めて範囲とした。台地上の東側は黒土が厚く(60~80cm)なるが、他は削平されて表土(20cm)の下が直ぐ地山である。



第6図 松館跡 位置図



第7図 松館跡工事区域内遺跡範囲図



松館跡 遠景 (南西▶北東)

大沢遺跡

1 所在地 秋田市金足岩瀬字大沢92-58外

2 工事区域内遺跡面積 900 m²

3 調査期間 平成元年 4 月24日~28日

4 調查担当者 武藤祐浩、安田忠市

5 遺跡の立地と現況

遺跡は秋田市金足の岩瀬集落の東側に位置する。秋田市黒川より西にのびる丘陵は、遺跡付近で北側から入り込む大沢によって開析されており、遺跡は東西を沢筋によって挟さまれ北側に張り出す台地の北端に立地している。現況は山林(杉)と畑地であるが、この地域は油田地帯であり、遺跡内にも採掘用の櫓を設置するために平坦に削平された箇所が認められた。

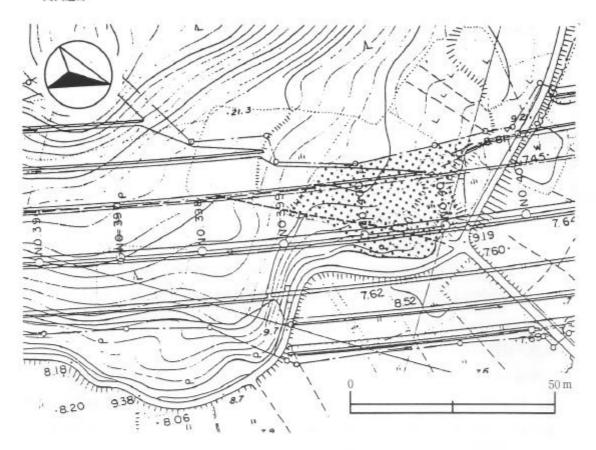
6 範囲・事代・性格

今回の路線は遺跡のある台地の北東縁を通り台地南東の湿地を渡るように計画されている。秋田市教育委員会の分布調査によって台地北端の畑部分が遺物散布地であることは確認されていたため、台地北端の遺構の有無及び南東側の湿地に向けての遺跡の広がりを確認するために地形に合わせて計9本のトレンチを設定して調査した。調査の結果、台地中央から南半では遺構・遺物ともに検出されず、台地北半からは縄文土器の小破片・ピエスエスキーユ(1点)・フレークを少量出土した。縄文土器の中には中期初頭に位置付けられるものが含まれている。遺物出土地点の層位は1層表土10~20cm、2層褐色土20~40cm(遺物包含層)、3層地山である。

7 参考事項

なお、この遺跡は平成元年10月4日~11月10日まで発掘調査を実施した。





第9回 大沢遺跡工事区域内遺跡範囲図



大沢遺跡 遠景 (北▶南)

2 琴丘能代道路建設事業

萱刈沢I遺跡

1 所在地 山本郡八竜町鵜川字萱刈沢7-2外

2 工事区域内遺跡面積 1,600 m²

3 調査期間 平成元年 5 月 8 日 ~ 5 月12日

4 調査担当者 谷地 薫、三浦光男

5 遺跡の立地と現況

本遺跡は八竜町萱刈沢部落の東側の標高約30mの丘陵上にある。能代市周辺の日本海沿岸には海岸線に平行して砂丘と海成段丘の丘陵が並んでいるが、遺跡のある丘陵は成合台地と呼ばれる海成段丘である。基盤層は潟西層と呼ばれる砂層である。遺跡からは直線距離で西方約3.7kmで日本海、南西約2.5kmで旧八郎潟に至る。

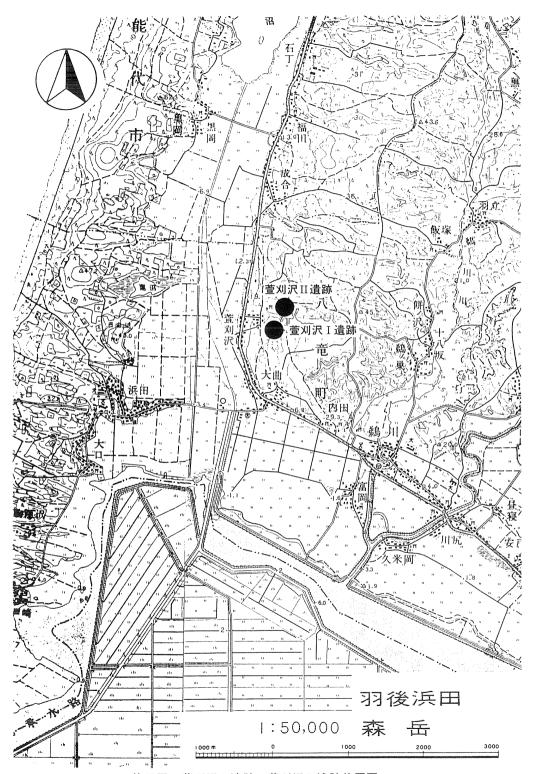
調査区の北側には、段丘を開析して幅約 100 m の沢が入り、その上流は寒堤と呼ばれる沼になっている。沢を挾んだ対岸の丘陵上には萱刈沢 II 遺跡がある。本遺跡の西約200 m には昭和33年から昭和48年まで 6 次にわたって発掘調査され、竪穴住居跡、フラスコ状土坑、貝層、人骨等を検出した県指定史跡萱刈沢貝塚がある。

6 範囲·時代·性格

調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡1軒、土坑5基を検出した。遺物は縄文時代中期(円筒上層a式)・後期の土器片、フレークが出土した。

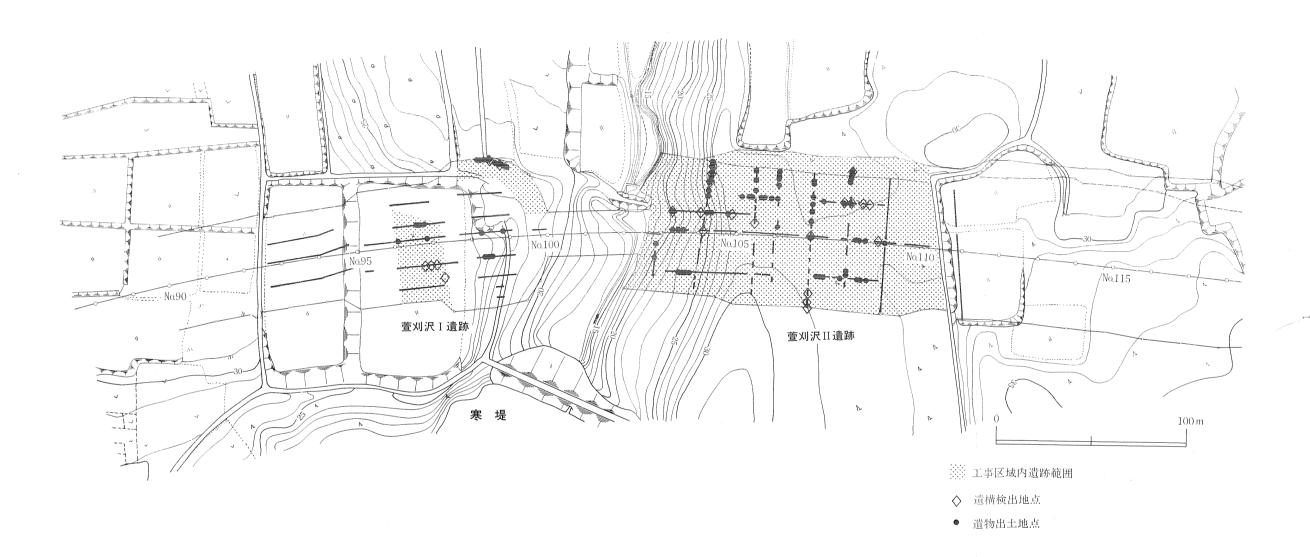
工事計画の本線部分は耕作によって遺構の上部まで既に削平され、本来の遺物包含層は残っていない。土坑は表土直下(地表下15~20cm)で検出した。耕地造成によって切り崩された露頭にも土坑が1基露出している。

橋脚部分では縄文時代中期の竪穴住居跡を1軒検出した。地表下約20cmで縄文時代中期の遺物包含層に達し、その層厚は15~20cmである。遺構確認面は地表下約40cmの暗褐色土上面である。トレンチで確認した竪穴住居跡は径約5.2mで、壁高は約20cmである。この地点から西側約200mの萱刈沢貝塚では発掘調査で同時期の竪穴住居跡が検出されており、北側の沢に面した台地上には、広範囲にわたって縄文時代中期の集落跡が存在していると推測される。工事計画区域には本遺跡の一部が含まれる。



第10図 萱刈沢Ⅰ遺跡・萱刈沢Ⅱ遺跡位置図





第11回 萱刈沢Ⅰ遺跡・萱刈沢Ⅱ遺跡工事区域内遺跡範囲図

萱刈沢Ⅱ遺跡

1 所在地 山本郡八竜町鵜川字萱刈沢 5 — 1 外

2 工事区域内遺跡面積 15,500 m²

3 調査期間 平成元年 5 月11日~ 5 月19日

4 調査担当者 谷地 薫、三浦光男

5 遺跡の立地と現況

本遺跡は八竜町萱刈沢部落の北東約250mの丘陵上にある。能代市周辺の日本海沿岸に海岸線に平行に並ぶ砂丘と海成段丘の丘陵のうち、成合台地と呼ばれる標高約30mの海成段丘上に立地する。基盤層は潟西層と呼ばれる砂層である。遺跡からは直線距離で西約3.7kmで日本海、南西約2.7kmで旧八郎潟に至る。

調査区の南側は段丘を開析して幅約 100 m の沢が入り、その上流は寒堤と呼ばれる沼になっている。沢を挾んだ対岸の丘陵上には萱刈沢 I 遺跡、南西約 230 m には、竪穴住居跡、フラスコ状土坑、貝層、人骨等を検出した県指定史跡萱刈沢貝塚がある。

6 範囲・時代・性格

調査の結果、縄文時代中期(大木8b式)の竪穴住居跡1軒、縄文時代の土坑8基、平安時代の竪穴住居跡2軒、平安時代の溝跡2条等を検出した。遺物は縄文土器片(前期・中期)、石槍、フレーク、土師器(杯形土器・甕形土器)が出土した。

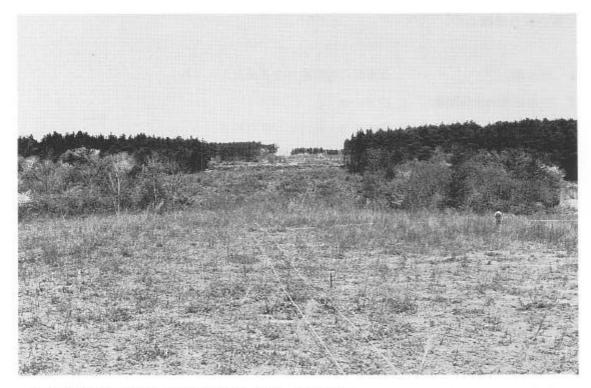
工事計画の本線部分では、地表下25~30cmで遺物包含層に達し、その層厚は約15~20cmである。地表下40~45cmの暗褐色土上面で遺構が確認される。橋脚部分(斜面)では、地表下20~25cmで遺物包含層に達し、地表下35~40cmの暗褐色土上面で遺構が確認される。

台地上の平坦面ではトレンチ調査で平安時代の竪穴住居跡を2軒検出した。成合台地上に営まれた平安時代の集落跡である十二林遺跡、福田遺跡と立地条件が類似することから、広範囲にわたって平安時代の竪穴住居跡が存在する集落跡であると考えられる。また、縄文土器の含まれる土坑も検出した。

斜面では縄文時代の土坑を検出した。萱刈沢貝塚の例からみてフラスコ状土坑の可能性が高い。斜面下部の狭い平坦面では縄文時代中期(大木8b式)の竪穴住居跡の一部を検出した。斜面から斜面下部の狭い平坦面にかけては縄文時代の集落跡と土坑群が存在すると考えられる。本遺跡は平安時代と縄文時代の集落跡が複合しており、その中心部が工事計画区域に含まれる。

7 参考事項

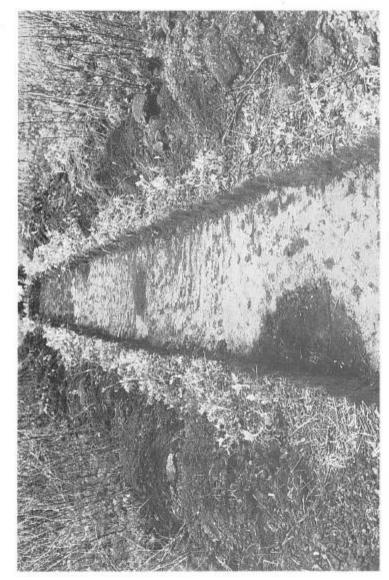
なお、この遺跡は平成元年10月2日~11月30日まで発掘調査を実施した。



萱刈沢Ⅰ遺跡 現況、萱刈沢Ⅱ遺跡 近景 (南▶北)



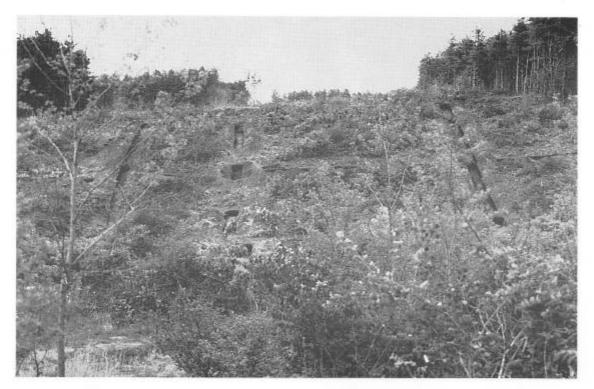
萱刈沢Ⅰ遺跡 現況 (南▶北)



曹刈沢 I 遺跡 土坑 (南▶北



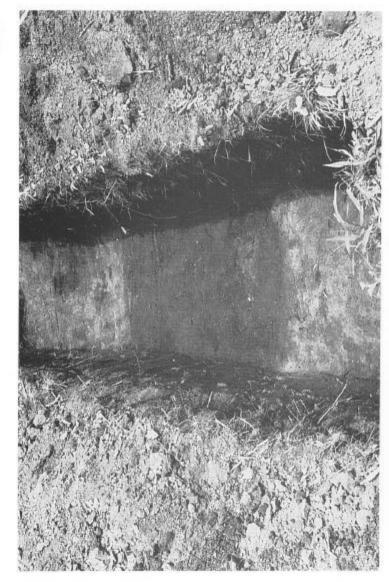
萱刈沢I遺跡 竪穴住居跡 (南▶北)



萱刈沢Ⅱ遺跡 現況 (南▶北)



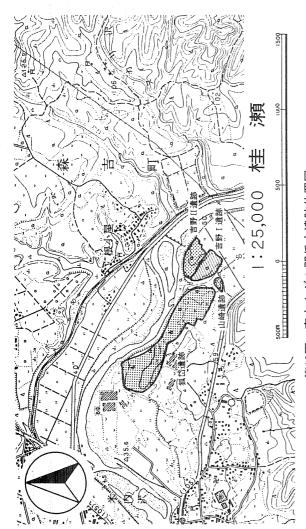
萱刈沢Ⅱ遺跡 土坑 (南▶北)



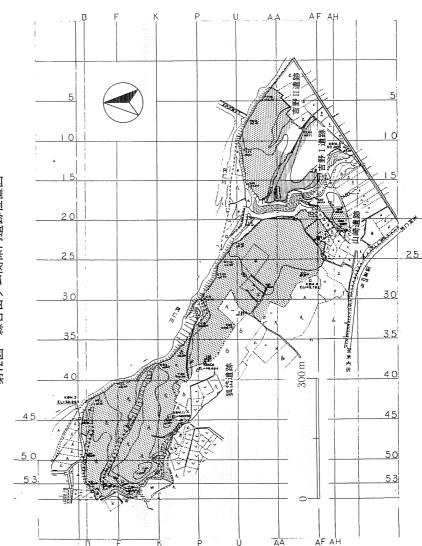
萱刈沢Ⅱ遺跡 土坑 (南▶1



萱刈沢Ⅱ遺跡 竪穴住居跡 (西▶東)



第12図 森吉山ダム関係内遺跡位置図



第13図 森吉山ダム関係工事区域内遺跡範囲図

3 森吉山ダム関係

狐岱遺跡

1 所在地

北秋田郡森吉町米内沢字狐岱88外

2 工事区域内遺跡面積

126,200 m²

3 調査期間

平成元年6月13日~6月30日

4 調査担当者

大野 憲司、柴田 陽一郎、武藤 祐浩

5 遺跡の立地と現況

遺跡が東西に長大であること、調査の結果、第30ラインあたりで東側と西側ではその性格にかなりの差があると考えられることから、便宣的に30ライン以西をA区、以東をB区とした。

 $A \boxtimes$

北東裾を阿仁川が南東〜北西方向に流れている。A区には、この阿仁川によって形成された上位・下位2面の河岸段丘があり、両者の比高差は4~6mで、明瞭な段丘崖面が略南東ー北西方向に存在する。また、A区南辺には段丘崖に並行するような、縄文人が形成した土堤状の高まりが存在する。現況は杉林である。

 $B \boxtimes$

北東隅部に、A区で下位段丘面とした面がわずかに残る以外は、A区の上位面の連続した平坦な面である。現況は畑地と原野である。

6 範囲・時代・性格

 $A \boxtimes$

検出された遺構は、すべて縄文時代前期末葉~中期末葉のものと考えられる。竪穴住居 44軒、土坑31基、焼土2箇所以上、配石遺構6基、配石墓(組石棺墓)12基、埋設土器3基 の他、大きな柱穴を多数検出した。この他、遺構とは別に扱うべきであろうが、土堤状の 高まり部と、広範囲で厚い拾場を検出した。

縄文時代の土器や石器などの遺物は、A区全般から出土しているが、特に広大な捨場では夥しい量である。遺物の総量はコンテナ77箱ほどであるが、採集できなかった遺物も多い。各地点における遺物は、縄文時代前期末葉~中期前葉のものがA区西端部、以下東側に向かって順次時期が新しくなり、第38~30ラインあたりで中期末葉となる。また、ごく一部にすぎないが、第44トレンチの下位段丘面で後期後葉の土器が出土している。

狐岱遺跡

B区

遺構は、配石遺構を除いては、段丘面の縁辺に近い部分に検出される。

縄文時代:竪穴住居 1軒、配石遺構 1基、土坑 1基、焼土 1箇所

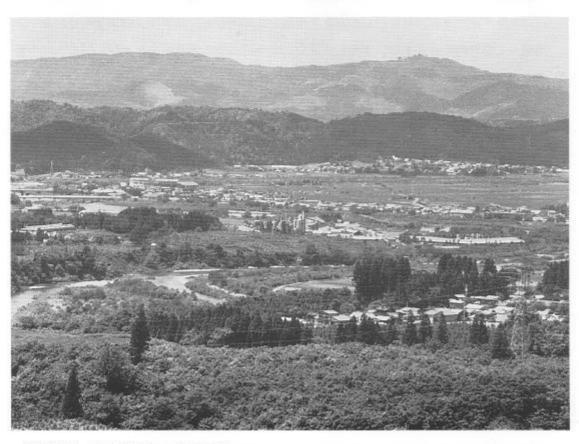
平安時代:竪穴住居 1 軒

時期不明:土坑6基 溝状遺構 1条、焼土 3箇所

このうち、配石遺構は縄文時代晩期後葉のもので、径50cm前後の大きな河原石を立て並べたりしたものである。その規模は東西約6m、南北1.5mの北に開く「コ」の字形を呈している。

遺物は調査区全般に散在している。縄文時代中期・晩期の土器片、縄文時代の石器など、コンテナで1箱出土した。

以上のように本遺跡のA区は縄文時代前期から中期にかけて営まれた大規模な集落跡で、 B区は縄文時代と平安時代の集落跡と考えられる。

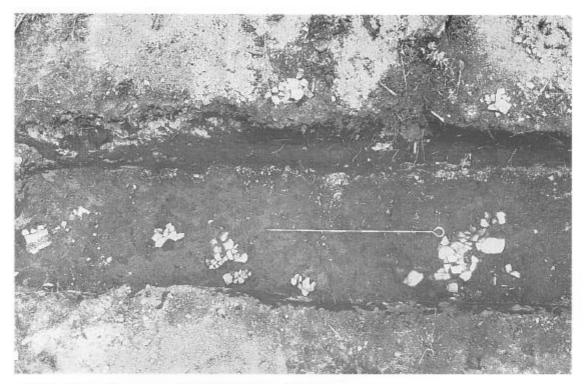


狐岱遺跡 西半部遠景 (東▶西)

 $-25 \cdot 26 -$

狐估遺跡

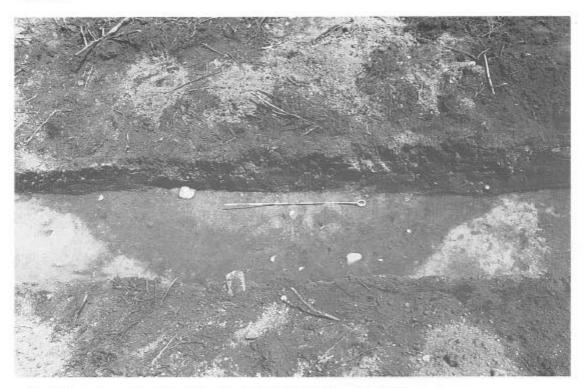
第14図 测遺跡遺構配置図



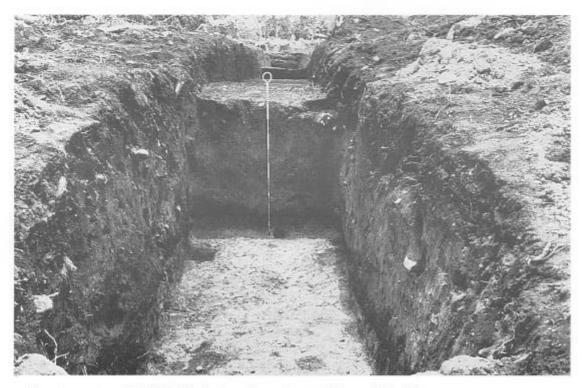
第50トレンチ50─ J区 遺物出土状況 (東▶西)



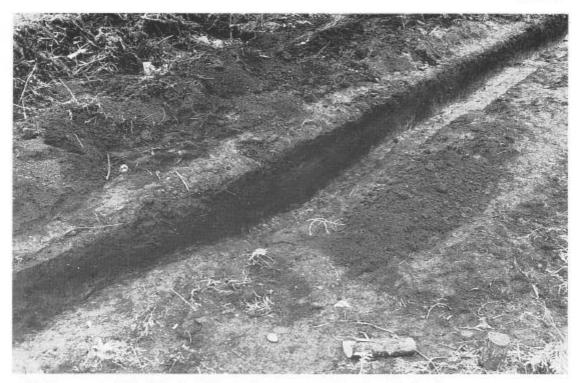
第46トレンチ46―L区 土器出土状況



第42トレンチ 竪穴住居 (SI 42-1) の検出状況 (西▶東)



第41トレンチ 竪穴住居 (SI41-2) の断面の状況 (北▶南)



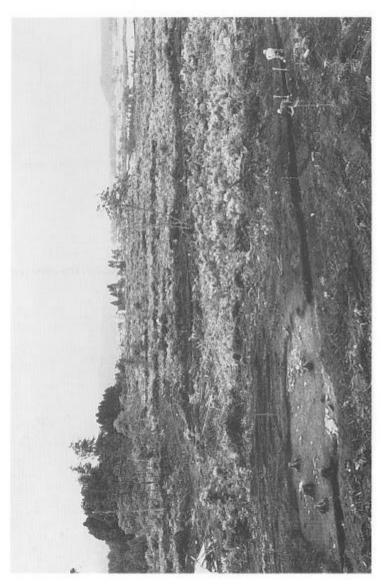
第38トレンチ 竪穴住居 (SІ38-7) の断面の状況 (北東▶南西)



段丘崖面に形成された捨場の位置 (南東 > 北西) 右側が下位丘面、左側が上位段丘面



第40トレンチ 配石墓の状況 (東▶西)



第38トレンチ38─M区拡張部 配石墓跡 (東▶西)



第38トレンチ38-M区拡張部 配石墓群 (東▶西)



第38トレンチ 配石墓群の調査 (北東▶南西)



第38トレンチ 配石墓群北西隅部 (SQ38-2・3・4) (南▶北)



第38トレンチ 配石墓SQ38─1 (南東▶北西)



配石墓SQ38-3 (南西▶北東)

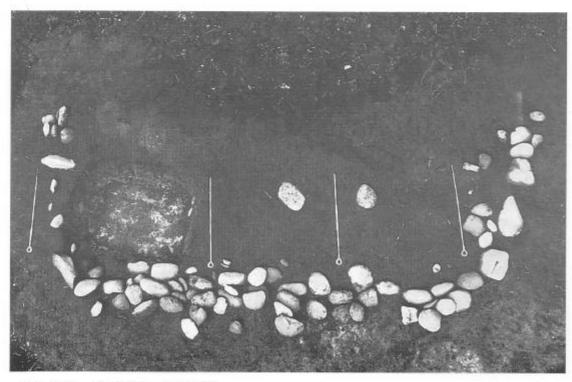


第36トレンチ36-0区 配石墓群 (南▶北)

狐齿遺跡



26-X区 配石遺構 (南▶北)



26-X区 配石遺構 (南▶北)

山崎遺跡

2 工事区域内遺跡面積 3,300 m²

3 調査期間 平成元年 6 月12日~30日

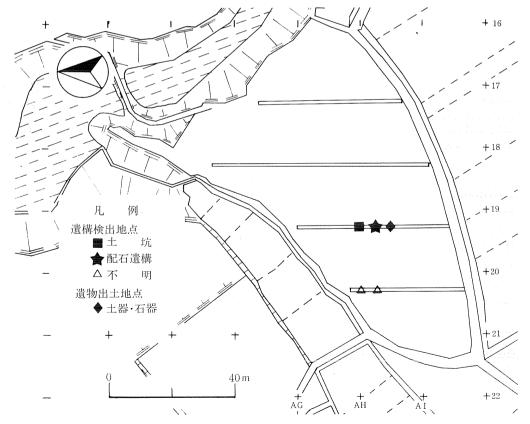
4 調査担当者 船木義勝

5 遺跡の立地と現況

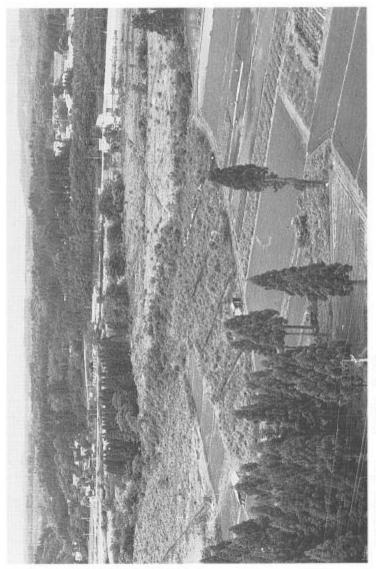
遺跡は阿仁川左岸から沢を約200 mほど沢を遡った河岸段丘上に位置する。舌状台地の 北東側は阿仁川に通ずる深い沢であり、北西側は浅い沢で一部水田となっている。現況は 雑木林である。

6 範囲・時代・性格

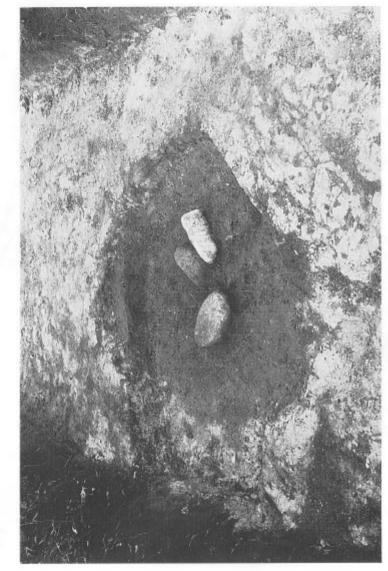
工事区域内範囲に幅1mの南北トレンチを20m間隔に4本設定した。その結果、縄文時代の土坑1基、配石遺構1基を検出し、縄文土器1点を発見した。出土した土器は縄文土器の細かな破片であり、時期の特定はできなかった。



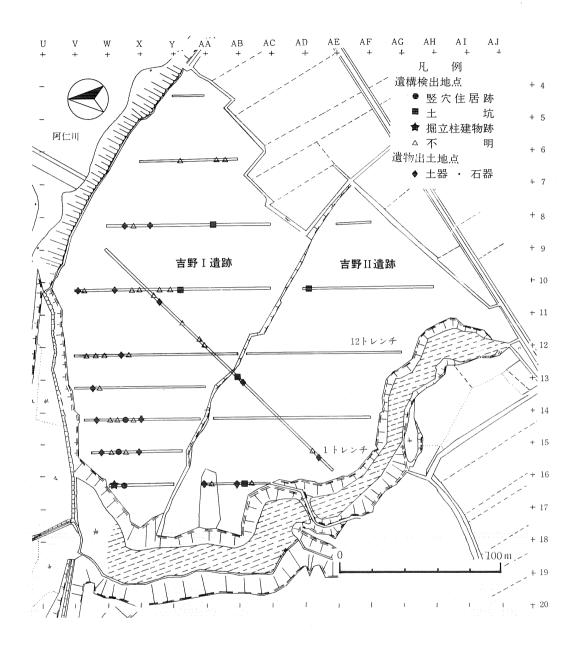
第15図 山崎遺跡遺構配置図



山崎邊跡 遠景 (南西▶北東)



L体遺跡 19トレンチ (AI19) 土坑 (南▼北)



第16図 吉野 I · Ⅱ遺跡遺構配置図

吉野I遺跡

吉野I遺跡

1 所在地 北秋田郡森吉町米内沢字吉野26外

2 工事区域内遺跡面積 8,500m²

3 調査期間 平成元年 6 月12日~30日

4 調査担当者 船木義勝

5 遺跡の立地と現況

遺跡は阿仁川左岸に接する吉野 II 遺跡より、浅い沢を隔てた一段高い標高48~49mの連続する河岸段丘上に位置する。調査の結果、遺跡の中央部は栗園造成工事によって表土が削平され、ローム層(地山)が露出していた。遺構と遺物包含層は削平を免れた台地周縁部によく残っていた。

6 範囲・時代・性格

工事区域内に幅1mのトレンチを6本設定した。調査の結果、縄文時代の土坑(後期・ ・ 映期)2基、その他性格不明の遺構2基を検出した。このほか栗園造成工事によって出土 したと思われる弥生土器を発見した。甕は頸部に刷毛目の見られるものと、頸部に2段の 刺突文と斜位RL縄文が施文されたものとがある。前者は志藤沢・横長根遺跡などに出土 例があり、後者は本県では類例資料がなく、青森県に出土例が多い。

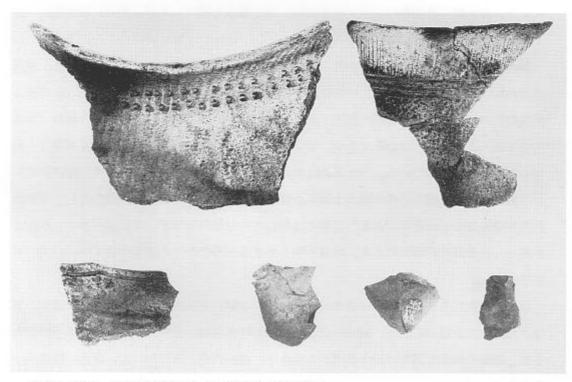
以上の調査結果から、台地周縁部には遺物と遺物包含層が残っていることを確認した。 遺跡は縄文時代後期から晩期、弥生時代にかかる複合遺跡であったと復原できる。



吉野 Ⅰ 遺跡 遠景 (南西 ▶ 北東)



吉野 I 遺跡 16トレンチ (A C16) 土坑 (北西▶南東)



吉野 I 遺跡 出土遺物 (弥生土器)など 表面採集

吉野II遺跡

2 工事区域内遺跡面積 21,900 m²

3 調査期間 平成元年 6 月12日~30日

4 調査担当者 船木義勝

5 遺跡の立地と現況

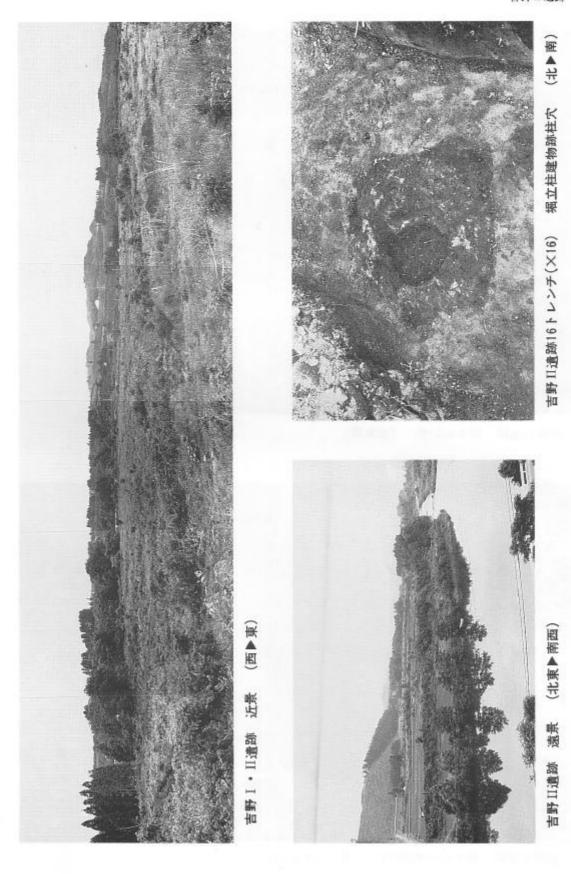
遺跡は阿仁川に面する左岸の段丘上に位置し、東西に長い立地景観をもつ。遺跡中央は標高47mの等高線がとおる小高い部分(最高部の標高は47.58m)があり、その周辺は東端が46.5m、西端が45.3mの緩い傾斜をもつ平担面である。南側は西から浅い沢が入り、東側ほど深くなっている。

調査時の現況は、西半が吉野家の宅地・畑地・墓地、東半が杉の造林地と雑木林であった。

6 範囲・時代・性格

調査は工事用基準杭を基点として20~40m間隔に南北方向9本と、段丘に直交する1トレンチと合わせて計10本のトレンチを設定した。基本土層は、1層(表土)が黒色土(10 Y R 2/2) 15cm、2層は黒褐色土(10 Y R 2/2) 10~25cm、3層は暗褐色土(10 Y R 3/4)15~20cm、4層は黄褐色粘質土(10 Y R 5/6)であり、遺物包含層は2・3層にあたる。遺跡の北西部は表土が比較的薄く、一部はすでに遺物包含層が失われている。検出した遺構は平安時代の遺構(掘立柱建物の柱穴・溝・土坑など)12基、その他時期不明の遺構(竪穴住居・溝・土坑など)は17基である。平安時代の多くの遺構は、上面に大湯浮石層(十和田 a 火山灰)を含んでいる。出土遺物は縄文時代前期の土器(円筒下層 B 式・深郷田式)が圧倒的に多く、縄文時代中期の土器および縄文時代の石器(石錘・石匙など)、平安時代の須恵器甕などは僅少である。石器では阿仁川の河原石を加工した石錘が多く、漁撈を生業とした遺跡の性格が伺える。時期不明とせざるを得なかった遺構は縄文時代前期の可能性が高い。

以上の調査結果から、遺跡は縄文時代(前期・中期)と古代(平安時代)と断続的に占拠されたことが認められる。縄文時代と古代における遺跡の在り方は本調査では不明であるが、遺構の検出と遺物の出土状況から見ると、遺跡西半と阿仁川に近い範囲に密度濃く分布することが認められる。また縄文時代の竪穴住居と焼土遺構が点在することから、一定規模の縄文時代の集落が形成されていたと考えられる。古代の掘立柱建物柱穴(掘形・柱痕)が検出されているが、遺物も少なく集落を構成していたかどうか明確でなかった。





吉野Ⅱ遺跡 10トレンチ (北▶南)



吉野Ⅱ遺跡 16トレンチ(W10) 溝 (南▶北)

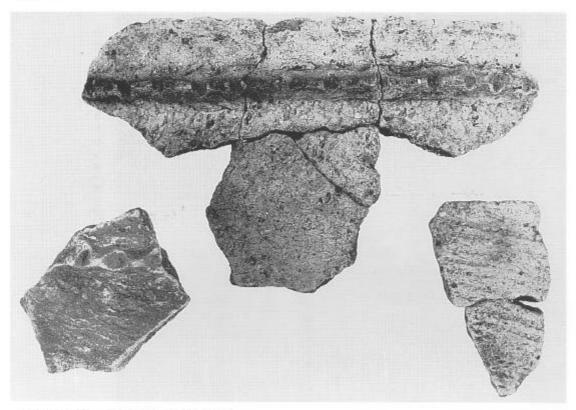
吉野Ⅱ遺跡

(南▼北)

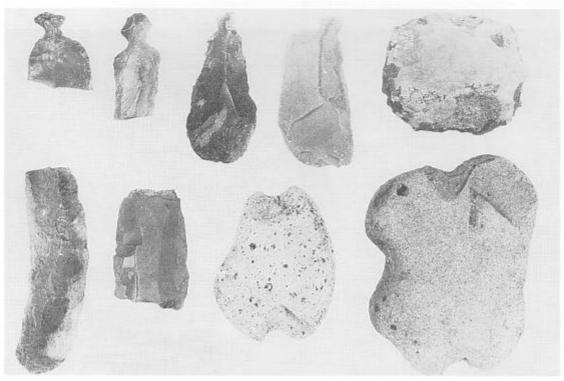




吉野Ⅱ遺跡 14トレンチ(×14) 土坑 (西▶東)



吉野Ⅱ遺跡 出土遺物 (縄文土器)



吉野 II 遺跡 出土遺物 (石器)

4 秋田ふるさと村建設事業

1 遺跡名 所在地 工事区域内遺跡面積

 $12,900 \,\mathrm{m}^2$

遺跡名	所 在 地	工事区域内遺跡面積
富ヶ沢A窯跡	横手市赤坂字富ヶ沢62-33外	4,200 m²
富ヶ沢B窯跡	横手市赤坂字富ヶ沢62-40外	$4,200\mathrm{m}^{z}$
富ヶ沢C窯跡	横手市赤坂字富ヶ沢62-54外	2,900 m²
富ヶ沢1号塚	横手市赤坂字富ヶ沢62- 9外	400 m²
富ヶ沢2号塚	横手市赤坂字富ヶ沢62-18外	400 m²
富ヶ沢3号塚	横手市赤坂字富ヶ沢62-21外	400 m²
富ヶ沢4号塚	横手市赤坂字富ヶ沢62外	$400\mathrm{m}^\mathrm{z}$

2 調査期間

平成元年9月4日~10月4日

3 調査担当者

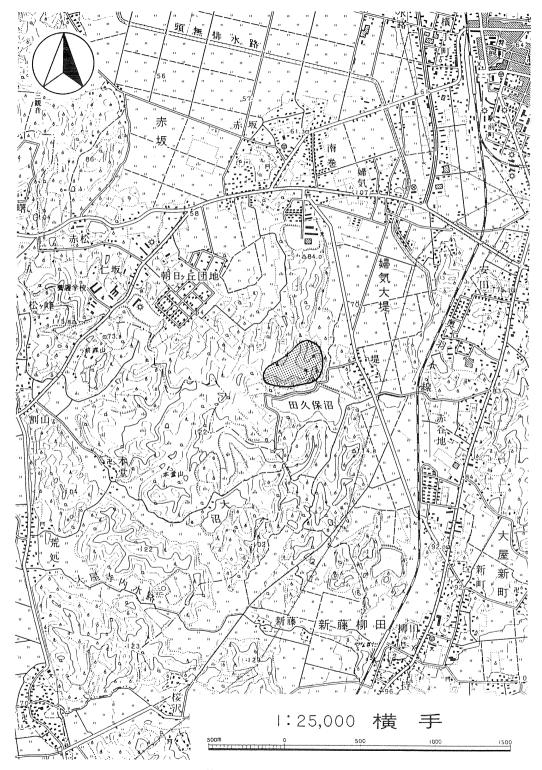
船木義勝、利部 修、沢谷 敬、藤原 司

4 遺跡の立地と現況

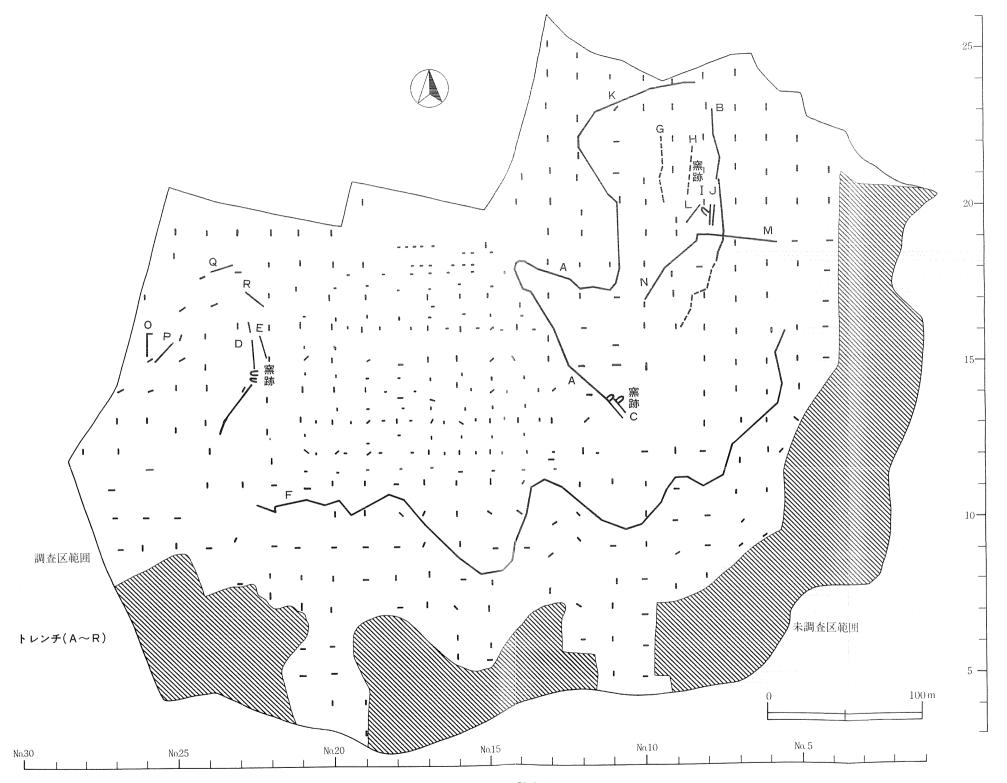
調査区は横手市街地の南西に南北に広がる中山丘陵の中央部東端にあり、北側は郷士館窯跡の位置する小丘陵、東側には沖積地、南側では田久保沼の三方に囲まれた範囲である。遺跡は、この起状に富み複雑に入り組んだ標高70~100mの地形に点在している。調査区内には北東区域に南北に延びる小丘陵(丘陵 a)、東から南・西へと弧状に延びる丘陵(丘陵 b)、それらの間に挟まれた低位な地形とからなる。低位な地形は調査区中央から西側にかけて広がり、調査区の北西にある沖積地へと続いている。富ヶ沢A窯跡は丘陵 a の北側東斜面に、富ヶ沢B窯跡は同丘陵南側の南西斜面に、富ヶ沢4号塚は同尾根北端部にそれぞれ位置している。また、富ヶ沢C窯跡は丘陵 b の西側東斜面に位置しており、富ヶ沢1号塚は同丘陵西側山頂部、富ヶ沢2・3号塚は同南側の尾根上に約60mの間隔を保って位置している。遺跡の所在地はほとんどがナラなどの雑木で被われた傾斜地や尾根地であるが、富ヶ沢A窯跡東側の一部は畑地となっている。

5 範囲・時代・性格

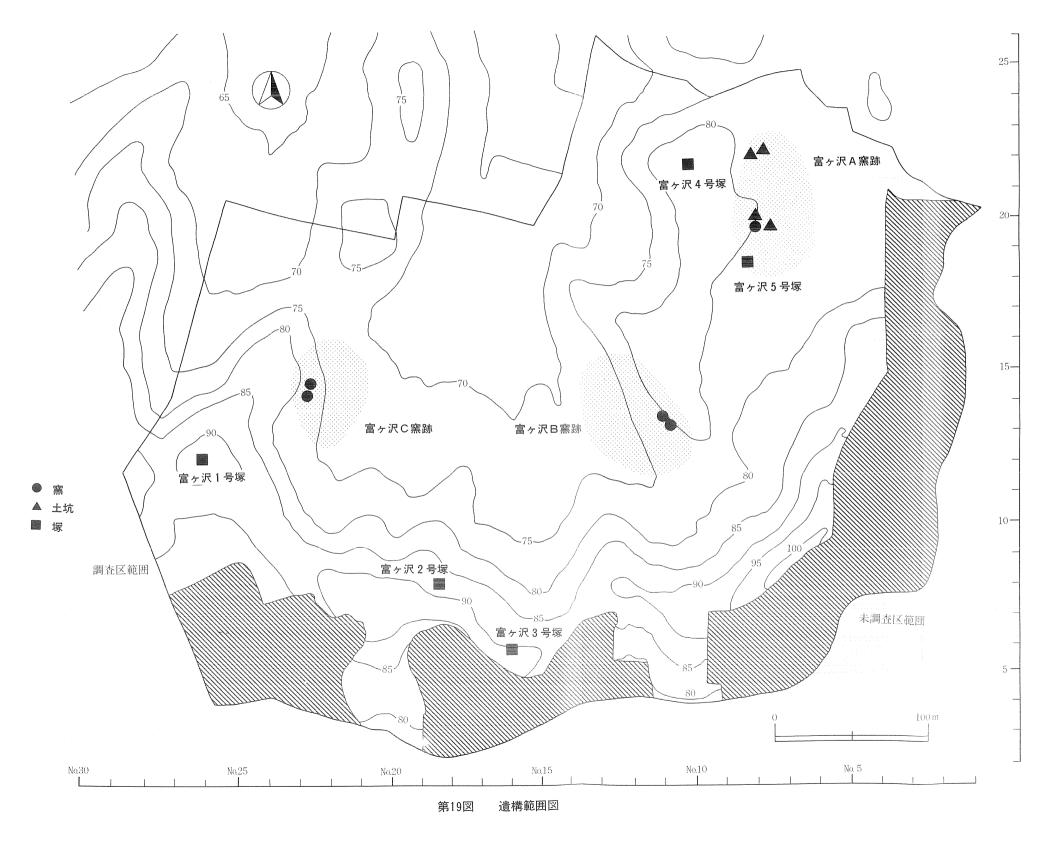
富ヶ沢A窯跡では、平安時代の須恵器を焼成した半地下式の窖窯1基とその下方に広がる灰原、土坑4基、塚と考えられる径約2mの円形状の盛りあがり1基を検出した。出土遺物は須恵器が大半であるが、土師器・縄文土器もわずかに認められる。これら遺構・遺物の広がりは約50m×80mと広く、竪穴住居跡の確認される可能性がある。須恵器は、坏・



第17図 遺跡位置図



第18図 調査範囲およびトレンチ設定図



坏蓋・有台环・甕が出土した(1~5)。

富ヶ沢 B 窯跡では、平安時代と考えられる半地下式窖窯の構造をもつ須恵器窯 1 基ずつを検出した。窯は並んで位置し、それらの灰原遺物は多量かつ広範囲で約 $50\,\mathrm{m} \times 80\,\mathrm{m}$ である。遺物は坏・有台坏・甕が出土した(6・7・9~13)。

富ヶ沢C窯跡でもB窯跡と同様並んだ2基の半地下式の窖窯を検出した。しかし、B窯跡に較べて遺物はやや少ないと思われ、その分布範囲は約50m×60mである。遺物は坏・ 糠が出土した(8)。これら5基の窯は、幅が1m前後、長さが7m前後と推定される。

6 土層

I 層褐色土 腐植土層で軟らかい。層厚 5~10cm。

II 層暗褐色土 全域に普遍的にあり、遺物包含層である。遺構はこの層で確認できる。 層厚10~30cm。

Ⅲ層黒色土 斜面裾部を中心に堆積している。層厚30~40cm。

Ⅳ層褐色土 漸移土である。層厚5~15cmである。

V層明黄褐色土 地山土で礫を多量に含んだり、部分的には赤色を呈する所もある。

7 出土遺物

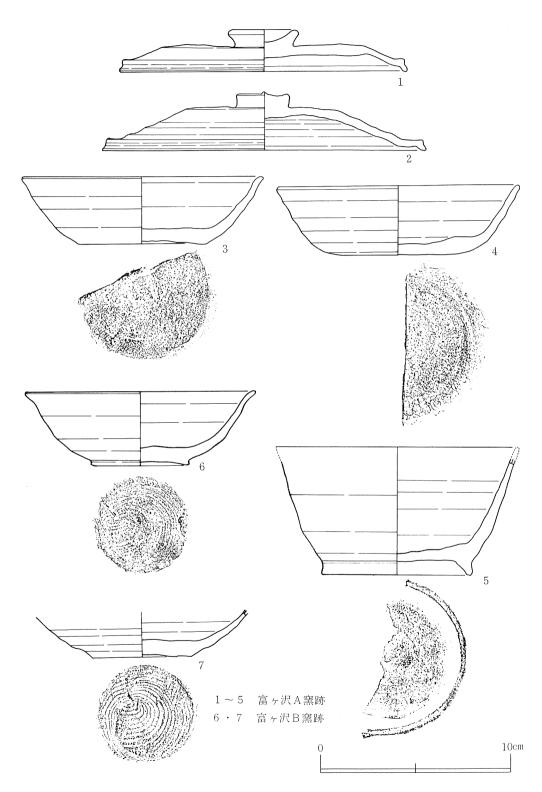
本調査における出土遺物は縄文土器、土師器、須恵器に限られる。そのうち、縄文土器は摩滅がはげしく数点の出土で、土師器も坏、甕の小破片が数点である。須恵器は多量に出土し、生産遺跡の特色を良く示している。須恵器の器種は、甕・壺・坏・有台坏・蓋である。ここでは、その中のいくつかを説明する。

1・2は蓋である。扁平な器形の中央につまみをもつ。端部は屈接して外反する。つまみは1ではリング状、2では断面方形を呈している。1・2とも右回転ロクロ成形と考えられる。口径は1で15cm、2では17cmである。

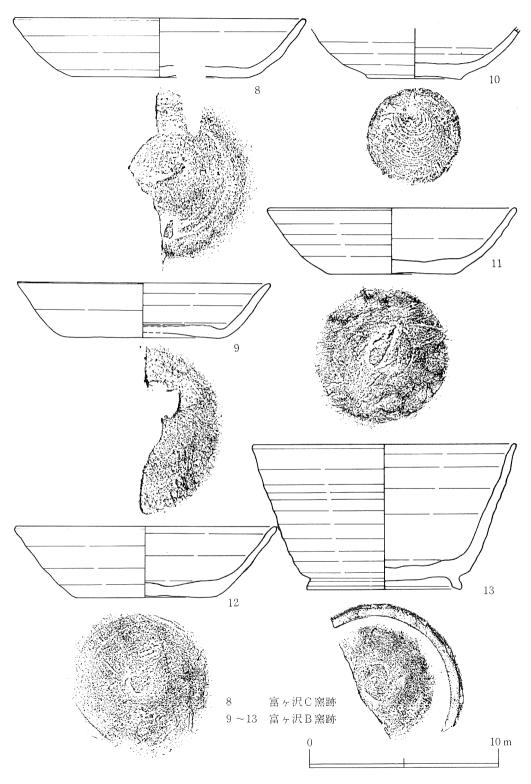
3・4・8・9・11・12は、体部が内弯ぎみあるいは直線的に立ちあがる坏である。切り離し技法は回転へラ切りで、大ぶりのタイプ(8)とそれ以外とに分けられる。すべて右回転ロクロ成形と考えられる。8の口径は15.4cm、他は13cm前後である。

5・13は有台坏である。5は台部と体部が連続するタイプ、13は明瞭に分かれるタイプである。どちらも右回転ロクロの回転へラ切り技法である。13は口径14cmである。

6・7・10は体部が内弯して立ちあがり、口縁部で強く外反する坏である。底部が突出し、切り離しはロクロ右回転の回転糸切り技法である。6は口径12.1cmですべて褐色の仕上がりである。これらの遺物は平安時代と考えられる。



第20図 出土遺物 (1)



第21図 出土遺物 (2)



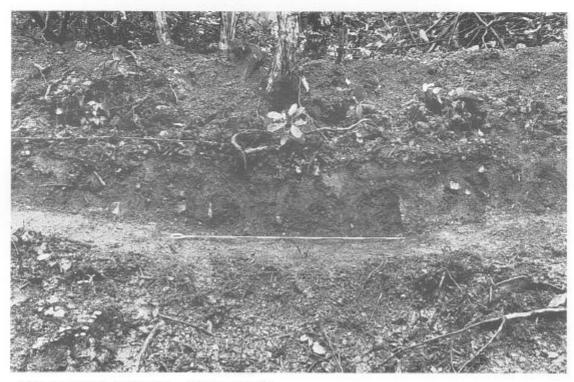
遺跡遠景 (北東▶南西)



富ケ沢A窯跡 窯近景 (南▶北)



富ヶ沢B窯 窯近景 (北西▶南東)



富ヶ沢B窯跡 窯体断面 (南西▶北東)



富ヶ沢 C窯跡 近景 (南▶北)



富ヶ沢1号塚 近景 (南▶北)

5 三重地区公害特別対策事業

宝竜堂遺跡

1 所在地 平鹿郡十文字町上鍋倉字宝竜堂50外

2 工事区域内遺跡面積 300 m²

3 調査期間 平成元年11月6日~9日

4 調查担当者 船木義勝

5 遺跡の立地と状況

遺跡はJR十文字駅から西方向に約1.2 km、古木に覆われた今木神社とその周辺に位置する。遺跡の南方約100mには、北西方向に流れる大宮川(国営M・3幹線用水路)があり、大宮川の右岸には東側から注ぐ一本の沢筋(現在は一部埋め立てられて水田となっている)がある。この合流点から沢筋を約100m 溯った北側の微高地上に立地した遺跡で、標高は約80mである。

現況は鎮守の森となっている今木神社社地と神社東側の畑地(休耕田)である。

6 範囲・時代・性格

調査は工事計画の掘削部分に相当する排水路内にグリッドを設定し、遺構遺物の検出と 土層の確認を行うとともに現況排水路内壁面の土層観察を行った。

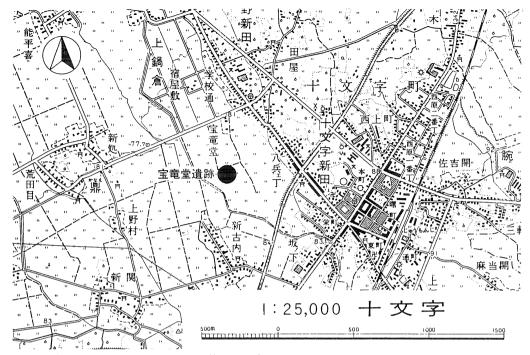
検出した遺構は柱穴1箇所、発見した遺物は縄文土器(中期)である。

本遺跡の発掘調査は昭和47年7月、十文字町教育委員会が主催して(発掘調査担当者) 山下孫継氏により秋田県南部高等学校考古学研究協議会の協力のもとに行われ、調査の成 果は「宝竜堂遺跡発掘調査報告」(『北方考古』第7号・昭和47年1月)として公刊してい る。報告書によれば調査は神殿の前庭左右に2本のトレンチを設定し、遺物包含層は30~ 60cmである。遺物は多量の土器と石器の出土を見たが、遺構の検出はなかったと記録して いる。出土した縄文土器は縄文時代中期(大木7b式、8a式、8b式)である。

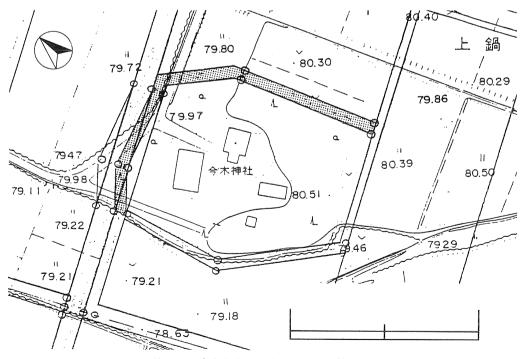
本遺跡の範囲は今回の調査、遺物の分布、微地形から判断すれば、今本神社社地から東側一帯に拡がっている可能性がある。現時点で竪穴住居跡などの遺構の検出はないが、縄 文時代の集落遺跡と考えられる。

7 **土層** 基本土層 1層・表土 (耕作土)、2層 黒色土 15cm、3層 黒褐色土 19cm 4層 11cm、5層 黄褐色粘質土 (地山)

遺物包含層(2~4層)の平均層厚は約45cmで、遺跡の北東部ほど厚く、南西部が薄い傾向を示している。



第22図 宝竜堂遺跡位置図



第23図 宝竜堂遺跡工事区域内遺跡範囲図



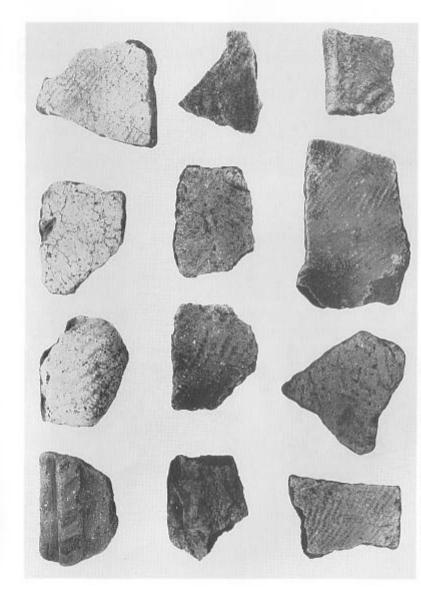
宝竜堂遺跡 遠景 (北▶南)



宝竜堂遺跡 遠景 (南▶北)



宝竜堂遺跡 柱穴 (南▶北)



宝竜堂遺跡 出土遺物 (縄文土器)